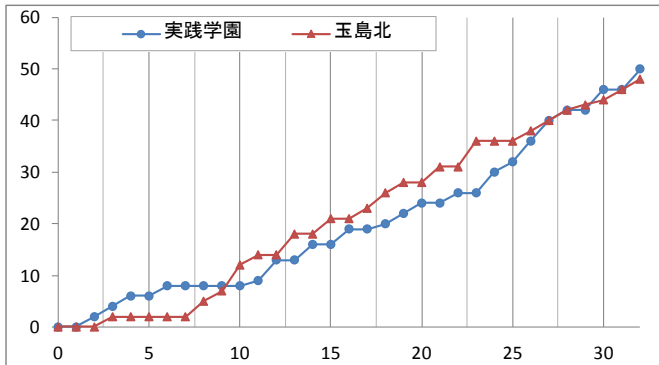




得点経過



大会名	平成27年度全国中学校体育大会 第45回全国中学校バスケットボール大会							
会場	一関市総合体育館							
日時	2015年8月25日(火)		14:30					
コート	Mコート 第4試合							
カテゴリー	男 決勝							
主審	玉木 彰治							
副審	平林 達哉・松岡 隆博							
TEAM A	実践学園 50 (東京都) ○		TEAM B 玉島北 48 (岡山県) ●					
	<table border="0"> <tr> <td>8 1st 5</td> <td rowspan="4"> 48 ● (岡山県) </td> </tr> <tr> <td>11 2nd 16</td> </tr> <tr> <td>11 3rd 15</td> </tr> <tr> <td>20 4th 12</td> </tr> </table>			8 1st 5	48 ● (岡山県)	11 2nd 16	11 3rd 15	20 4th 12
8 1st 5	48 ● (岡山県)							
11 2nd 16								
11 3rd 15								
20 4th 12								

BOXスコア

TEAM A		実践学園						
No.	選手氏名	出場	得点	3P	2P	FT	F	
4	小玉 大智	×	12	0	4	4	0	
5	小松 篤	DNP	0	0	0	0	0	
6	藤村 夏生	DNP	0	0	0	0	0	
7	若月 遼	×	13	1	5	0	0	
8	豊島 隆平	DNP	0	0	0	0	0	
9	斉藤 颯斗	/	3	0	1	1	0	
10	横山 悠人	×	0	0	0	0	0	
11	樋口 将馬	DNP	0	0	0	0	0	
12	伊藤 康雄	×	4	0	2	0	0	
13	渡部 一輝	DNP	0	0	0	0	0	
14	佐藤 律希	DNP	0	0	0	0	0	
15	江原 信太郎	×	6	0	3	0	3	
16	吉崎 裕志	DNP	0	0	0	0	0	
17	木村 圭吾	/	12	0	6	0	1	
18	小宮山 駿帆	DNP	0	0	0	0	0	
コーチ	森 圭司							
合計	50 1 21 5 4							

TEAM B		玉島北						
No.	選手氏名	出場	得点	3P	2P	FT	F	
4	土家 大輝	×	13	2	3	1	2	
5	山本 草大	×	5	0	2	1	0	
6	小栗 瑛哉	×	11	1	4	0	2	
7	角谷 大成	/	0	0	0	0	0	
8	上田 開斗	DNP	0	0	0	0	0	
9	勝部 珠莉輝	×	10	0	4	2	4	
10	植田 温人	DNP	0	0	0	0	0	
11	笠井 則良	DNP	0	0	0	0	0	
12	山下 啓一	DNP	0	0	0	0	0	
13	清水 聡太	DNP	0	0	0	0	0	
14	妹尾 亮哉	DNP	0	0	0	0	0	
15	難波 英	DNP	0	0	0	0	0	
16	難波 悠大	DNP	0	0	0	0	0	
17	守友 良	×	9	1	3	0	3	
18	土屋 拓人	DNP	0	0	0	0	0	
コーチ	坪井 晶							
合計	48 4 16 4 11							

×…スターター /…出場 DNP…未出場 3P…3点シュート 2P…2点シュート FT…フリースロー F…ファウル

戦評

昨年準優勝の関東第一代表の実践学園と中国第一代表玉島北の対戦。実践学園はマッチアップゾーンDef、玉島北はマンツーマンDefやシュート後のオールコートプレスを試みる。先取点は実践学園#12が#15のインサイドに合わせ得点。すかさず、玉島北は#4のシュートで応戦。この後、実践学園は終始高さで激しいDefで相手に立ちはだかる。玉島北は外角のシュートを中心に攻め#4が3Pを決めるが8-5。実践学園3点リードで1Qを終える。2Q、開始直後、玉島北は激しいDefから#5や#17がパスカットをし、#6の3Pなどで逆転。その後も、#17のシュートや#4のフローターシュートなどで常にリードを保つ。Defでは実践学園#4のインサイドに対し玉島北#4と#9が体を張って得点を許さない。19-21で前半終了。

後半走り出したのは玉島北。#9にスティール、リバウンドから得点が生まれ、この試合最大の10点差をつけた。対する実践学園はインサイドにボールを集め、終了間際に#4がシュートを決めて食いが下がり、30-36で3Q終了。4Qも両校激しいぶつかり合いを見せる。実践学園は高いリバウンドからボールを支配し連続得点。開始3分で同点に。玉島北はタイムアウトで立て直しを図る。中盤、実践学園#4にここまでマッチアップしてきた玉島北#9が4つ目のファウル。これで得たフリースローを実践学園#4が2本決めて同点にし、さらに#17が逆転のシュート。その後、互いに死力を尽くす攻守でシーソーゲームに。玉島北は#4にボールを集めゴールを狙う。一方、実践学園はインサイドから#7や#17のシュートで土壇場での決定力を見せる。同点で迎えた残り30秒。実践学園のシュートは無情にもはずれたが、リバウンドを競り合っただけのボールはゴール下の実践学園#4へ。気持ちで決めたこのゴールが決勝点となった。両校の卓越した個人技術と意地がぶつかり合った素晴らしい試合。実践学園が昨年の雪辱を果たし、全国の頂点に立った。